

令和5年度 臨床統合試験問題

本試験(2)

令和6年2月5日(月)

注意事項

1. 指示があるまで問題冊子を開かないこと。
2. 問題冊子の学生番号・氏名欄を記入すること。
3. マークシートの番号、氏名欄は裏表紙の記入上の注意に従い、解答も含め鉛筆で記入すること。ボールペン等での記入、未・誤記入の解答は無効です。
4. この問題冊子は試験終了後回収するので持ち帰らないこと。
5. 問題は5肢単純択一形式、X2形式(「2つ選べ」)およびX3形式(「3つ選べ」)です。消し忘れ等不明瞭な解答は無効です。

学生番号	氏 名
B M	

臨床統合試験問題

第 1 問

38 歳の女性。2 妊 2 産。妊娠 37 週。交通事故による腹部打撲で救急搬送された。意識は清明。体温 36.9 °C。脈拍 110 回/分。血圧 120/80 mmHg。胎児心拍数 90 bpm。有痛性の持続的な子宮収縮および性器出血を認める。

最も考えられる疾患はどれか。

1. 切迫早産
2. 前置胎盤
3. 羊水塞栓症
4. 絨毛膜羊膜炎
5. 常位胎盤早期剥離

臨床統合試験問題

第 2 問

30 歳の女性。無月経となり市販の妊娠反応検査が陽性のため来院した。月経周期は 30～50 日型で、最終月経から算出した妊娠週数は 10 週 0 日であった。超音波断層法で子宮内に心拍を有する胎児を認めるが、頭殿長は妊娠 8 週 2 日相当である。

現時点の対応として適切なのはどれか。

1. 自宅安静を指示する
2. 妊娠週数を修正する
3. 食事療法を指導する
4. 母体の血糖値を測定する
5. 絨毛検査の必要性を説明する

臨床統合試験問題

第 3 問

28歳の女性。0妊0産。妊娠23週4日、性器出血を主訴に来院した。妊娠初期から妊婦健康診査を受けていたが特に異常は認めなかった。昨夜から下腹部痛を自覚し、今朝性器出血を認めたため心配になり受診した。身長154 cm、体重56 kg(非妊時52 kg)。体温37.1℃。脈拍88/分、整。血圧126/74 mmHg。呼吸数18/分。腹部は妊娠子宮で膨隆し、柔らかい。陰鏡診で分泌物は粘液性で少量の血液が混じっている。経腹超音波断層法では正常脈で足位の児を認める。経膣超音波断層法画像を別に示す。

まず行うのはどれか。



1. 外回転術
2. 緊急帝王切開
3. 子宮頸管縫縮術
4. $\beta 2$ 刺激薬の点滴静注
5. 副腎皮質ステロイドの筋注

臨床統合試験問題

第 4 問

38 歳の女性。1 妊 0 産。妊娠 27 週。妊婦健康診査のため受診した。身長 160 cm、体重 60 kg (非妊娠時 55 kg)、血圧 158/92 mmHg、下腿に浮腫を軽度認める。内診所見に異常を認めない。尿蛋白(-)、尿糖(-)。経腹超音波断層法で児の発育と羊水量に異常を認めない。

第一選択薬として最も考えられるのはどれか。

1. β 受容体遮断薬
2. カルシウム拮抗薬
3. 硫酸マグネシウム水和物
4. アンジオテンシン変換酵素阻害薬
5. アンギオテンシン II 受容体拮抗薬

臨床統合試験問題

第 5 問

40 歳の女性。0 妊 0 産。妊娠 40 週 2 日。陣痛発来のため入院した。陣痛は次第に増強し、3,812 g の男児を経膣分娩した。陣痛発来から児娩出までに要した時間は 5 時間で、児娩出後 3 分で胎盤が自然娩出した。娩出した胎盤に欠損を認めない。会陰裂傷はなかった。分娩直後から、中等量の出血が持続し、出血量は 400 mL となった。意識は清明。脈拍 80/分、整。血圧 100/54 mmHg。呼吸数 24/分。下腹部痛はなく、子宮底は臍上 3 cm に触れる。

まず行うのはどれか。

1. 輸血
2. 子宮全摘出術
3. 子宮内容除去術
4. 子宮底輪状マッサージ
5. 経カテーテル的動脈塞栓術(TAE)

臨床統合試験問題

第 6 問

産褥経過について誤っているものを3つ選べ。

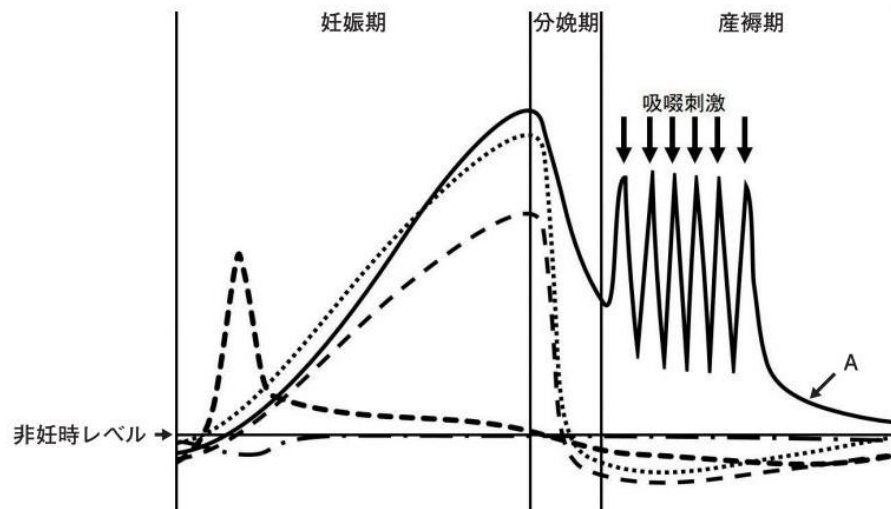
1. 後陣痛はオキシトシンによって促進される
2. マタニティブルーズは産褥1か月頃が最も多い
3. 悪露の色調の変化は赤色→褐色→白色→黄色
4. 化膿性乳腺炎は主にブドウ球菌による感染で起こる
5. 子宮は分娩後2週間でほぼ非妊娠時の大きさになる

臨床統合試験問題

第 7 問

妊娠、分娩、産褥期における母体血中ホルモン値の変化を別に示す。

実線Aが表しているのはどれか。ただし、各線は1～5のいずれかに該当する。



※妊娠期、分娩期、産褥期で時間軸は一定ではありません。

1. エストロゲン
2. プロラクチン
3. プロゲステロン
4. 甲状腺刺激ホルモン
5. 絨毛性ゴナドトロピン

臨床統合試験問題

第 8 問

33 歳の女性。2 妊 1 産。妊婦健康診査時の経腹超音波断層法で胎児腹水を指摘されたため、妊娠 24 週に当院を紹介受診した。超音波断層法の結果は、胎児肝臓の周囲と横隔膜下に腹水を認めた。初診時の血液検査結果は、サイトメガロウイルス(CMV)IgG は>250 AU/mL (判定は陽性)、CMV IgM は 0.86 Index (判定は保留)であった。妊娠 25 週に羊水穿刺を行い、羊水中のサイトメガロウイルス DNA が陽性であることを確認した。

この症例の児について正しいのはどれか。3 つ選べ。

1. 児が難聴を合併するリスクが高い
2. 児が心疾患を発症するリスクが高い
3. 出生した児は尿検査によって先天性 CMV 感染症と診断される
4. 先天性 CMV 感染症の新生児が出生時に症状を有する頻度は約 20%である
5. 胎児はすでに症候性であることから出生後に抗ウイルス薬治療の適応がない

臨床統合試験問題

第 9 問

1 か月の男児。妊娠 32 週の胎児超音波検査で左腎盂拡大を指摘され、産科医からの紹介で母親に連れられて受診した。在胎 38 週、出生体重 2,800 g であった。

腹部は平坦、軟で、肝・脾や腫瘤を触知しない。尿所見: 淡黄色で混濁なし、蛋白(一)、潜血(一)、白血球(一)、亜硝酸(一)。両腎と膀胱の超音波像を別に示す。腹部・骨盤腔内に占拠性病変は認めなかった。以下に外来での医師と母との会話を示す。



右腎

左腎

膀胱

医師:「左の腎臓でつくられた尿が膀胱までスムーズに流れていないのかもしれないね。」

おしっこはよくでていますか」

母:「勢いよくでています。1 日 8 回くらい、おむつを替えています」

医師:「母乳はよく飲みますか」

母:「2-3 時間ごとによく飲みます。飲んだあとは、スヤスヤとよく寝てくれます」

医師:「38 °C 以上の熱が出たことがありますか」

母:「ありません」

医師:「腎盂拡大については 3 か月後に(ア)をしましょう」

(ア)にあてはまる検査はどれか。

1. 腹部造影 CT
2. MR urography
3. 腹部超音波検査
4. 利尿レノグラム
5. 排尿時膀胱尿道造影

臨床統合試験問題

第 10 問

婦人科腫瘍患者の 2010 年以降の動向について正しいのはどれか。

1. 子宮体がん罹患率は上昇している
2. 子宮頸がんの罹患率は減少している
3. 外陰がんの発症年齢のピークは 40～50 歳である
4. 絨毛癌・臨床的絨毛癌患者数は年間 100 人以下である
5. 卵巣がんの罹患率は婦人科悪性腫瘍の中で最も上昇している

臨床統合試験問題

第 11 問

骨盤部 MRI で T1WI と T2WI いずれも低信号を呈する卵巢腫瘍はどれか。

1. 線維腫
2. 顆粒膜細胞腫
3. 漿液性嚢胞腺腫
4. 成熟嚢胞性奇形腫
5. 卵巢子宮内膜症性嚢胞

臨床統合試験問題

第 12 問

30 歳の女性。0 妊 0 産。子宮頸がん検診で異常を指摘されたため、当院を受診。自覚症状はない。身長 158 cm、体重 50 kg。体温 36.2 °C。脈拍 84/分、整。血圧 106/66 mmHg。呼吸数 16/分。内診で子宮は正常大で可動性良好。両側付属器に腫瘤を触知しない。

診断確定のために必要な検査はどれか。

1. 子宮鏡
2. 膀胱鏡
3. HPV タイピング
4. 下部消化管内視鏡
5. 子宮頸部狙い組織診

臨床統合試験問題

第 13 問

22 歳の女性。子宮頸がん検診の細胞診で、軽度異形成(子宮頸部上皮内腫瘍)疑いとされ精査目的で来院した。子宮がん検診を受けたのは今回が初めてである。内診および経膣超音波断層法で子宮と卵巣に異常を認めない。膣鏡診では、子宮腔部に肉眼で異常を認めない。

この患者でまず行うのはどれか。

1. 子宮全摘出
2. 抗ウイルス薬投与
3. 子宮頸部円錐切除
4. 腫瘍マーカー測定
5. コルポスコピー検査

臨床統合試験問題

第 14 問

子宮内膜症を強く疑う所見はどれか。

1. 下腹部の筋性防御
2. 圧痛のある硬い子宮
3. 柔らかく腫大した子宮
4. 直腸子宮窩(Douglas 窩)の有痛性硬結
5. 可動性の良い無痛性で柔らかい球状腫瘤

臨床統合試験問題

第 15 問

48 歳の女性。1 妊 1 産。腹部膨満感を主訴に来院した。3 か月前に腹囲増大を自覚し、1 週間前から腹部膨満感が強くなってきたため受診した。家族歴に特記すべきことはない。29 歳時に帝王切開している。身長 162 cm、体重 54 kg。体温 36.8 °C。

脈拍 84/分、整。血圧 106/66 mmHg。呼吸数 18/分。下腹部に弾性軟で可動性のない腫瘤を触知する。内診で子宮は後屈・正常大で圧痛はない。腫瘍マーカーは、CA19-9 87 U/mL(基準 37 以下)、CA125 235 U/mL(基準 35 以下)。骨盤部単純 MRI の T2 強調矢状断像を別に示す。胸腹部 CT で転移や播種を認めない。

この患者でまず行うのはどれか。

1. 開腹手術
2. 放射線照射
3. 嚢胞刺吸引
4. 薬物による抗癌治療
5. GnRH アゴニスト投与



臨床統合試験問題

第 16 問

34 歳の女性。0 妊 0 産。月経不順と挙児希望のため来院した。初経は 11 歳。月経周期 30～90 日で不整。身長 152 cm、体重 70 kg。経膈超音波断層法で、子宮は正常大、子宮内膜は高輝度で内膜厚 13 mm、卵巣は両側とも長径 4.0 cm で多数の小嚢胞(下図)を認めた。



図. 経膈超音波断層法

この病態で考えられる検査結果はどれか。2 つ選べ。

1. LH 高値
2. AMH 低値
3. FSH 低値
4. CA125 高値
5. HOMA-R 高値

臨床統合試験問題

第 17 問

無月経と障害部位の組み合わせで正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. Sheehan 症候群 — 子宮
2. Turner 症候群 — 視床下部
3. Asherman 症候群 — 下垂体
4. 過度の運動負荷 — 視床下部
5. アルキル化剤による化学療法 — 卵巣

臨床統合試験問題

第 18 問

過多月経の原因となるのはどれか。

1. 子宮腺筋症
2. 子宮腔癒着症
3. Sheehan 症候群
4. 多嚢胞性卵巣症候群
5. 高プロラクチン血症

臨床統合試験問題

第 19 問

早期流産の原因で最も頻度が高いのはどれか。

1. 子宮奇形
2. 子宮筋腫
3. 頸管無力症
4. 胚染色体異常
5. 抗リン脂質抗体症候群

臨床統合試験問題

第 20 問

直径 10 cm の子宮筋層内筋腫が原因となって生じ得るのはどれか。

1. 片頭痛
2. 無排卵
3. 過多月経
4. 希発月経
5. 月経前症候群

臨床統合試験問題

第 21 問

わが国の体外受精の現状について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 8 割以上は凍結胚による妊娠である。
2. 採卵あたりの生産率は増加している。
3. 出生 25 人に約 1 人が体外受精児である。
4. 体外受精・胚移植は保険診療で行われている。
5. 女性の年齢と不妊症の治療効果に関連はない。

臨床統合試験問題

第 22 問

女性の更年期障害に対するホルモン補充療法の禁忌はどれか。

1. うつ病
2. 骨粗鬆症
3. 高血圧症
4. 脂質異常症
5. 急性期静脈血栓症

臨床統合試験問題

第 23 問

長期間無月経をきたした女性で注意すべき続発症はどれか。

1. 色素沈着
2. 骨粗鬆症
3. 子宮内膜症
4. 末梢神経障害
5. 月経前症候群

臨床統合試験問題

第 24 問

51 歳の女性。顔面の発汗を主訴に来院した。半年前から疲れやすさを自覚し、発作性の発汗、後頸部の熱感および肩こりが増強してきたという。身長 162 cm、体重 56 kg。体温 36.0 °C。脈拍 72/分、整。血圧 124/76 mmHg。1 年前から月経はない。身体診察で明らかな異常を認めない。血液所見:赤血球 387 万、Hb 12.8 g/dL、Ht 39 %、白血球 6,300、血小板 21 万。血液生化学所見:AST 24 U/L、ALT 20 U/L、TSH 1.2 μ U/mL(基準 0.2~4.0)、FT4 1.1 ng/dL(基準 0.8~2.2)、FSH 38 mIU/mL(閉経後の基準 30 以上)。心電図で異常を認めない。

この病態の原因となっているのはどれか。

1. 肝 臓
2. 卵 巣
3. 下垂体
4. 冠動脈
5. 甲状腺

臨床統合試験問題

第 25 問

17 歳の女子。無月経を主訴に来院した。これまでに一度も月経がなかったが、歳上の姉も月経がないので心配していなかった。身長 168 cm、体重 55 kg。体温 36.5 °C。脈拍 72/分、整。血圧 124/76 mmHg。呼吸数 20/分。乳房は発達している。腋毛はない。外性器は女性型で、陰毛を認めない。内診では膣 4 cm の盲端で子宮腔部は認めない。右側鼠径部に径 2 cm の可動性のある腫瘤を触知する。

この患者にあてはまるのはどれか。

1. 子宮はない。
2. 性腺は卵巣である。
3. 染色体 trisomy がある。
4. 基礎体温は二相性を示す。
5. 男性ホルモンが欠損している。

臨床統合試験問題

第 26 問

35 歳の女性。性感染症治療後に病状を説明することになった。患者は帯下の増加と下腹部痛を主訴に 2 週前に来院した。付属器に圧痛を認め、子宮頸部の性器クラミジア DNA 検査が陽性で抗菌薬を投与した。帯下は減少し下腹部痛と圧痛も消失し、性器クラミジア DNA 検査も陰性となった。

患者に対する説明で適切なのはどれか。

1. 3 か月の避妊が望ましい。
2. クラミジア感染症は治癒した。
3. 異所性妊娠のリスクは低下した。
4. 子宮性不妊となる可能性が高い。
5. 今後クラミジア感染症になることはない。

臨床統合試験問題

第 27 問

腎不全、腎移植について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 透析患者は現在 30 万人を超える患者数である。
2. 血液型不一致移植ではリツキシマブを使用する。
3. 本邦では献腎移植がほとんどであり、生体腎移植は少ない。
4. 15 歳以下の小児は献腎移植のドナーとしては不適切である。
5. 本邦の移植患者数は年間 1,500～1,700 件程度で推移している。

臨床統合試験問題

第 28 問

尿道カテーテル留置の目的で最も適切なのはどれか。

1. 尿路感染の予防
2. 介護負担の軽減
3. 尿蛋白量の測定
4. 患者の長期安静保持
5. 水腎症を伴う慢性尿閉の治療

臨床統合試験問題

第 29 問

経尿道的手術が第一選択となるのはどれか。2 つ選べ。

1. 尿管癌
2. 腎細胞癌
3. 前立腺癌
4. 膀胱結石
5. 前立腺肥大症

臨床統合試験問題

第 30 問

尿路結石を生じやすい疾患として適切でないのはどれか。

1. 長期臥床
2. Cushing 症候群
3. 淡明細胞型腎細胞癌
4. 腎尿細管性アシドーシス
5. 原発性副甲状腺機能亢進症

臨床統合試験問題

第 31 問

尿管結石に伴う膿腎症患者に対し、まず行う治療として適切でないのはどれか。

1. 腎瘻造設術
2. 抗菌薬投与
3. 尿培養検査
4. 尿管ステント留置
5. 体外衝撃波結石破碎術

臨床統合試験問題

第 32 問

膀胱の蓄尿症状をきたさない疾患はどれか。

1. 腎結石
2. 脳梗塞
3. 脊髄損傷
4. Parkinson 病
5. 間質性膀胱炎

臨床統合試験問題

第 33 問

急性細菌性前立腺炎について正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 発熱を伴う。
2. 排尿痛を伴う。
3. 前立腺マッサージが有効である。
4. 起因菌はグラム陽性球菌が多い。
5. 禁酒などの生活指導が治療の基本である。

臨床統合試験問題

第 34 問

クラミジア性尿道炎について正しいのはどれか。

1. 強い尿道痛がある。
2. 潜伏期は1～2 日である。
3. 精巣上体の原因にならない。
4. 尿道分泌物は漿液性である。
5. 淋菌性尿道炎との重複感染はない。

臨床統合試験問題

第 35 問

51 歳の女性。左腎細胞癌に対して根治的左腎摘除術を受けている。術後 10 か月で、両肺に径 1 cm 未満の肺転移が複数出現した。

肺転移に対して、まず行うべき治療として適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 手術
2. 分子標的薬
3. 放射線照射
4. ホルモン療法
5. インターフェロン

臨床統合試験問題

第 36 問

66 歳の男性。5 年前から前立腺癌で治療中である。半年前に腰椎と右肋骨に転移が確認され、最近、腰痛を自覚するようになった。疼痛以外の自覚症状はない。

疼痛緩和のために、まず投与すべきなのはどれか。

1. コデイン
2. モルヒネ
3. フェンタニル
4. オキシコドン
5. アセトアミノフェン

臨床統合試験問題

第 37 問

膀胱癌について誤っているのはどれか。2 つ選べ。

1. 女性に多い。
2. 腺癌が最も多い。
3. 危険因子に、喫煙がある。
4. 危険因子に、膀胱の慢性炎症がある。
5. 筋層浸潤性膀胱癌に対する治療に膀胱全摘除術がある。

臨床統合試験問題

第 38 問

射精の中枢があるのはどれか。

1. 大脳皮質
2. 橋
3. 頸胸髄
4. 胸腰髄
5. 腰仙髄

臨床統合試験問題

第 39 問

泌尿生殖器の解剖で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 尿膜管は膀胱三角部に開口する。
2. 射精管は前立腺部尿道に開口する。
3. 右副腎静脈は右腎静脈に流入する。
4. 精巣動脈は内腸骨動脈から分枝する。
5. 尿管には 3 か所の生理的狭窄部位がある。

臨床統合試験問題

第 40 問

悪性腫瘍、放射線治療に関する以下の記述に関して、正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 放射線治療は乳房温存療法において局所領域制御に寄与しない。
2. エックス線による DNA の損傷は主に直接作用による。
3. 男性で最も罹患率の高い癌は前立腺癌であり、女性では乳癌である。
4. 癌による死亡率は低下している。
5. ほとんどの患者は外部放射線治療を受け、小線源治療の適応は限定される。

臨床統合試験問題

第 41 問

20 代男性。バスケットボールをしている最中に急激な膝の疼痛を発症。McMurray テスト陽性。このときの画像所見を下に示す。

正しいのはどれか。

1. 画像は CT である
2. 骨腫瘍が認められる
3. 前十字靭帯損傷が認められる
4. 半月板損傷が認められる
5. 中高年以上では稀である



臨床統合試験問題

第 42 問

胸部 X 線写真正面像における解剖学的部位に関する以下の記述において、正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 右第 1 弓は上大静脈、右第 2 弓は右心房に相当する。
2. 左第 1 弓は肺動脈主幹部に相当する。
3. 左第 2 弓は大動脈弓部に相当する。
4. 左第 3 弓は左心耳に相当する。
5. 左第 4 弓は下行大動脈に相当する。

臨床統合試験問題

第 43 問

健常成人の胸部単純 X 線写真について正しいのはどれか。2 つ選べ。

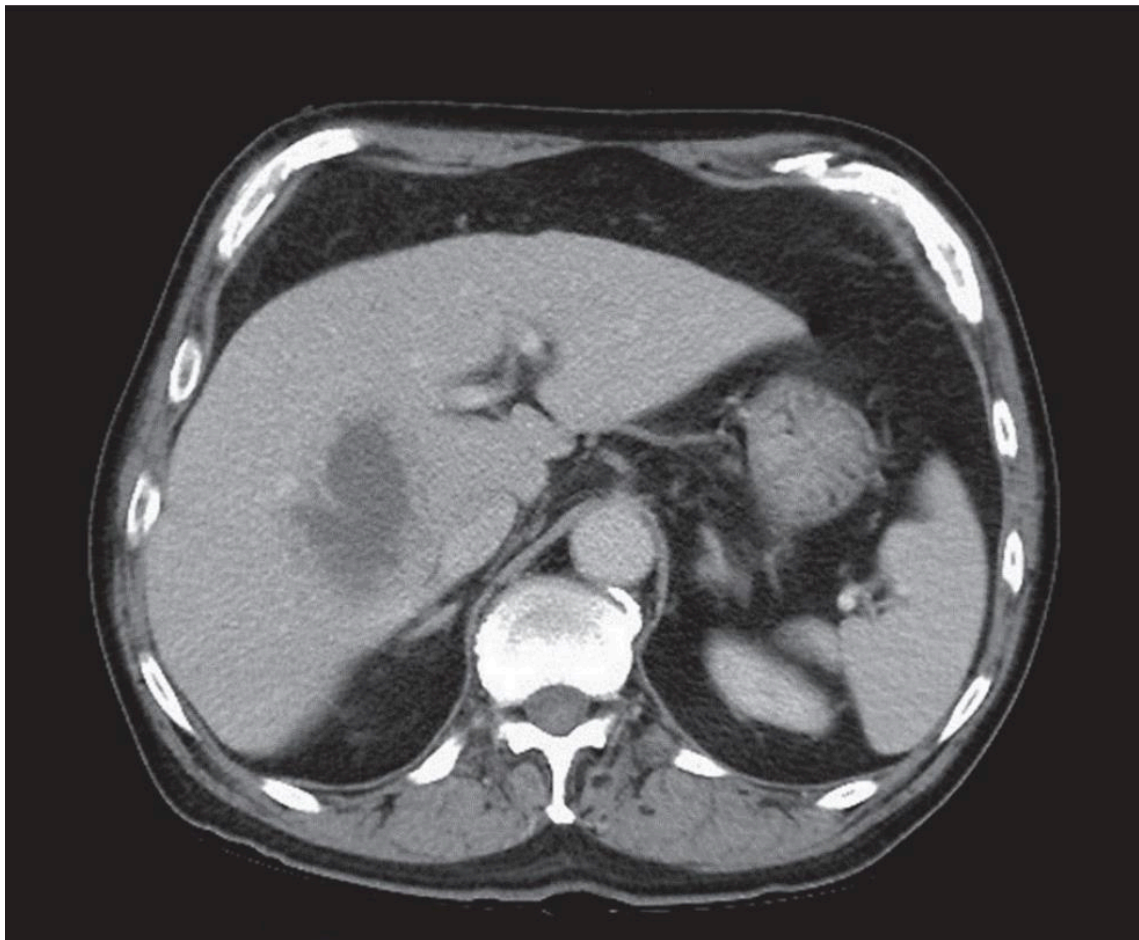
1. 右肺門は、左肺門より高位もしくは同じ高さである。
2. 病変によって正常構造の輪郭が消失している場合は、シルエットサイン陽性である。
3. 肺門の陰影は、主に肺動静脈・気管支で構成される。
4. 気管支分岐角度は左右ほぼ同じ角度である。
5. 胸部単純 X 線写真正面像で、下行大動脈は同定できない。

臨床統合試験問題

第 44 問

救急外来で撮影した腹部造影 CT を別に示す。患者は入院し、抗菌薬治療が開始された。入院翌日、救急外来で採取した血液培養 2 セットから Gram 陰性桿菌が検出された。追加すべき治療として適切なのはどれか。

1. 肝庇護薬の全身投与
2. 肝内病変のラジオ波焼灼
3. 肝内病変の穿刺ドレナージ
4. 副腎皮質ステロイドの全身投与
5. 肝内病変の内視鏡的経鼻胆管ドレナージ



臨床統合試験問題

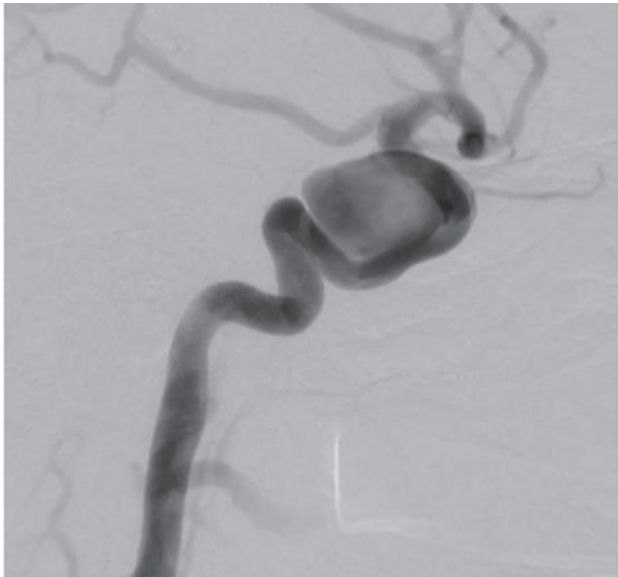
第 45 問

66歳の女性。左方視時の複視と羞明を主訴に来院した。1か月前から複視を自覚し、2日前から左眼の羞明が出現したため受診した。意識は清明。体温 36.4℃。脈拍 72/分、整。血圧 128/86 mmHg。呼吸数 14/分。頭部単純 MRI T2 強調像(A)と選択的左内頸動脈造影側面像(B)を別に示す。

この患者の治療で正しいのはどれか。

1. 血管内治療
2. 抗血小板薬投与
3. 定位放射線治療
4. ブロモクリプチン投与
5. 経蝶形骨洞的腫瘍摘出術

A



B



臨床統合試験問題

第 46 問

58 歳の男性。失神と頭部打撲を主訴に救急車で搬入された。友人宅で意識を消失して頭部を打撲したため、友人が救急車を要請した。付き添いの友人によると、この患者は独居で、5 年前に脳卒中で入院治療を受けたことがあるが、詳細は分からないという。意識レベルは JCS I-2。心拍数 86/分、整。血圧 140/90 mmHg。呼吸数 18/分。SpO₂ 98 %(room air)。後頭部に擦過傷を認める。搬入直後までの記憶がない。心電図に異常を認めない。頭部エックス線写真正面像(A)、側面像(B)及び頭部単純 CT(C)を別に示す。

この患者の 5 年前の既往として考えられるのはどれか。

1. スtent留置術
2. 脳室・腹腔短絡術
3. 穿頭血腫ドレナージ術
4. 脳動脈瘤頸部クリッピング術
5. 脳動脈瘤に対するコイル塞栓術

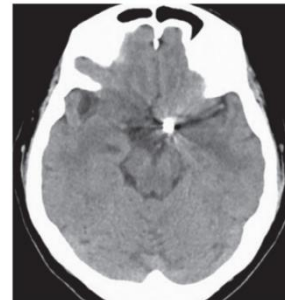
A



B



C



臨床統合試験問題

第 47 問

中咽頭癌に対する放射線治療の有害事象で、最も早期に出現するのはどれか

1. 粘膜炎
2. 白内障
3. 唾液腺障害
4. 放射線肺炎
5. 放射線誘発癌

臨床統合試験問題

第 48 問

72 歳の男性。肺がん検診で胸部異常陰影を指摘され来院した。左肺上葉に径 25 mm の結節影を認め、臨床病期 IA 期の原発性肺腺癌と診断された。心機能が低下しているため、手術療法は困難と判断され、根治目的に放射線治療を施行した。

治療終了 3 か月後の有害事象として認められる可能性が高いのはどれか。

1. 脱毛
2. 血球減少
3. 放射線肺炎
4. 放射線食道炎
5. 放射線皮膚炎

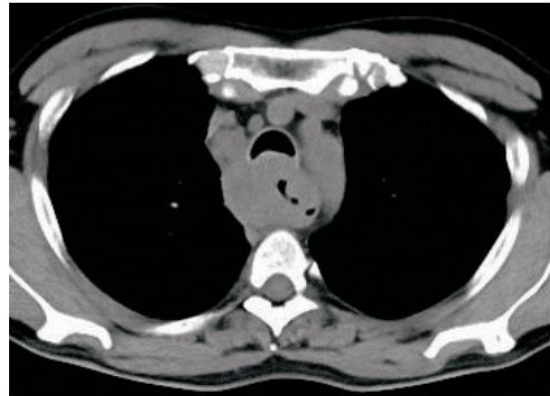
臨床統合試験問題

第 49 問

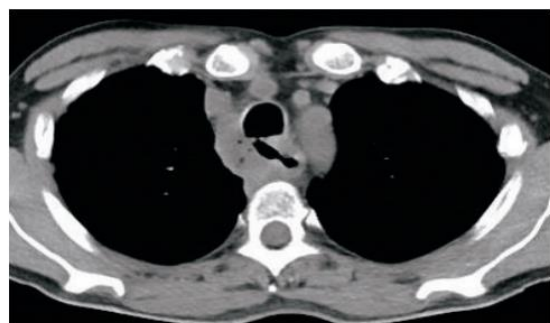
67 歳の男性。2 か月前からの嚥下障害を主訴に来院した。2 か月で 6 kg の体重減少があった。上部消化管内視鏡検査と病理検査により胸部上部食道の平上皮癌と診断され、放射線療法と薬物による抗癌治療の同時併用が施行された。治療終了後から肺炎を繰り返すようになった。治療前後の胸部 CT を別に示す。

この患者の肺炎の原因となる病態はどれか。

1. 縦隔リンパ節再発
2. 食道癌局所再発
3. 気管食道瘻
4. 食道狭窄
5. 縦隔炎



治療前縦隔条件



治療後縦隔条件



治療後肺野条件

臨床統合試験問題

第 50 問

放射線治療に関する以下の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 脊髄の耐用線量は 60 Gy である。
2. 肺癌の定位放射線治療では呼吸性移動に対するマネージメントは必要ない。
3. 強度変調放射線治療 (IMRT) を行うことによって、食道癌では心臓の線量を下げることが可能である。
4. 頭頸部癌に対する放射線治療では唾液腺障害は大きな問題とならない。
5. 画像誘導小線源治療 (IGBT) は X 線画像を用いて治療計画を行う小線源治療である。

[illegible]